資料６

平成３１年２月　　日

日本学術会議会長　殿

フューチャー・アースの連携と推進に関する委員会委員長　　安成　哲三

日本学術会議主催学術フォーラム企画案募集について（回答）

平成３１年１月１７日付府日学第４号をもって依頼のありました標記について、下記のとおり回答します。

記

1　フォーラムのテーマ
フューチャー・アースと学校教育：持続可能な社会と海洋の実現を目指して

2　企画趣旨
持続可能な社会を目指す国際プログラム Future Earth は、科学と社会の協働による Co-design、Co-production を重視しており、また ESD や SDGs の推進に積極的に取り組むことが求められている。その中で、地球環境と人間社会に強く関係している海洋についての教育も、重要な課題の一つになりつつある。フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会は、今年１月に公開ワークショップ「Future Earth と学校教育：ESD/SDGs をどう実践するか」を実施し、6 月には「Future Earth と学校教育：海の学びと人材育成」を実施する予定である。本学術フォーラムにおいては、これら２回のワークショップで紹介された学校教育における実践例を踏まえて方法論と課題を整理するとともに、科学と学校教育が協働することにより、具体的にどのような人材が育成できるか、また持続可能な社会づくりに向けて社会をどのように変えていけるのか等について、中学・高校生や大学生を含む広範な人々と共に議論する。

3　希望開催時期　　　　平成 31 年（新元号元年）9 月 8 日（日）13:00～17:00

4　コーディネーター
氷見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）
鈴木康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）
日置光久（日本学術会議連携会員、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任教授）

小金澤孝昭（日本学術会議特任連携会員、宮城教育大学教育学部特任教授）

５　演題・演者等（予定、交渉中のものも含む。）

13：00　開会挨拶・趣旨説明
　氷見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

13：10　ESDとSDGsの実践を通じて持続可能な社会をいかにつくるか
　小金澤孝昭（日本学術会議特任連携会員、宮城教育大学教育学部特任教授）

13：30　ESD/SDGsの成果を高めるために何が必要か
　及川 幸彦（東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センター主幹研究員）

13：45　小中高大の一貫教育でESDを実践する
　小田 宏信（成蹊大学経済学部教授）

14：00　小学校でのESD/SDGs授業実践から考える
　佐々木哲弥（東京都杉並区立西田小学校教諭）

14：15　SGH（スーパーグローバルハイスクール）の取り組みを活かす
　硤合 宗隆（玉川学園高等部教諭）

14：30　（休憩）

14：45　海の学びから持続可能な社会をいかに実現させるか
　日置光久（日本学術会議連携会員、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任教授）

15：05　実験から学ぶ海洋教育を活かす
　丹羽淑博（東京大学海洋アライアンス特任准教授）

15：20　「海洋教育」の実態から考える将来展望
　川上真哉（東京大学海洋教育促進研究センター特任研究員）

15：35　マイ・ウニ飼育からの海の学びを活かす
　小川博久（君津市立久留里中学校校長）

15：50　SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取り組みを活かす
　田中義靖（東京都立戸山高等学校教諭）

16：05　ディスカッション
　山口しのぶ（日本学術会議連携会員、東京工業大学学術国際情報センター教授）

16：55　閉会挨拶
　花木 啓祐（日本学術会議連携会員、東洋大学情報連携学部教授）

17：00　閉会

６　その他希望事項（開催場所等）

開催場所は日本学術会議講堂を、開催日時は　平成31年（新元号元年）9月8日（日）13:00～17:00を希望する。なお、経費負担及び担当職員の人的支援はいずれも希望する。

注）１　企画案の提出に当たっては、上記１～６の項目をできるだけ詳細に記入してください。特に講演を企画するに至った企画趣旨は必ず記入してください。
記入漏れのある場合は、書類不備扱いとなり、審議されない場合があります。

２　演題・演者が未定の場合には、分野だけでも記入してください。